A－41　香り（バニラエッセンス・スカトール）の食欲に及ぼす影響（第3報）

静岡女子短大　○内藤初枝　柴田長夫

目的　演者らは、従来から食欲に関して動物実験を行ない、食欲（食行動）を支配する様々な因子を一つ一つ取り上げ本質的影響を及ぼす因子を把握していくことを目的としている。そして現在までに必須栄養素が1種類でも欠乏した場合，必ず食欲不振に陥り、摂食量減少・体重低下をきたす。また食欲増進作用を持つと言われる香辛料からわさび・カレー粉・こしょうの3種を投与した場合、いずれの香辛料でも無投与群との間に差はなく効果は認められなかった。という結果を得ている。そこで今回は香りと食欲との関係につき調べる目的で、健常時及び食欲不振時（K欠乏時）の場合における香り（芳香・悪臭）の影響を調べた。

方法　Wistar系ラット，初体重50g前後，雄，実験群として①健常・芳香食群（バニラエッセンス0.01%）②健常・悪臭群（スカトール0.01%）③K欠乏・芳香食群④K欠乏悪臭食群　対照群として⑤健常対照群　⑥K欠乏対照群の計6群を作り約1ヶ月間飼育。そして毎日の摂食量・体重増加量・1週毎の効率を求め、飼育終了時に血液検査，主要臓器重量比及び関連ある臓器の組織学的検索を行なった。

実験結果　①いずれの条件下においても、芳香・悪臭ともに著明な影響は示さなかった。たとえ悪臭食であっても栄養的に満たされた内容であれば、芳香食でK欠乏食群と比べて成長は非常に良好であった。

②　尚、K欠乏時には、全例にわたり血清K値低下，SGOT・SGPTの上昇を認め、肝臓の脂肪変性及び腎比率増加を示した。